



一村 聖連さん
Ichimura Seren

〔仁田子区〕

いちむら せれん / 第100回全国
高校サッカー選手権出場。
Son's 甲佐、甲佐中サッカー部
を経て大津高校サッカー部入部。
フォワードとして背番号11を
背負い、名門大津の攻撃を牽引。

感謝の想いを胸に冬の選手権 で県勢初の全国制覇を誓う

「小・中学生の時にお世話
になったコーチや仲間たちに、
今の自分のサッカーを見ても
らいたいです」と話すのは、
12月28日（火）開幕の第
100回全国高校サッカー選
手権大会に出場する一村聖連

選手（大津高校3年・仁田子
区）。県代表の大津高校サッ
カー部で11番を背負うストラ
イカーだ。
夏のインターハイと並んで、
全国の高校サッカー部が頂点
を競うこの大会は、都道府県

予選を勝ち上がった48チーム
が冬の国立競技場を目指す。
一村選手は、フォワードと
して攻撃の中核を担い、県大
会4試合で3ゴールを決める
など、3年ぶりとなる同校の
選手権出場に大きく貢献した。
「昨年はコロナ禍による活動
制限のため、思うように練習
ができない期間もありました
それでも今できることを考え
て、地道に取り組んできたこ

とが現在につながっていま
す」と寮生活を送りながら
サッカーに向き合った日々を
振り返る。そんな毎日を通じ
ず中で見えてきたのは、サッ
カーがしたいという純粋な想
いとその実現のために支えて
くれる家族や周囲への感謝
だったという。

「小学3年から参加した
Sons（サンズ）甲佐でサッ
カーの楽しさを知り、甲佐中
サッカー部で勝者の喜びや敗
者の悔しさ、それらを仲間と
分かち合うことの素晴らしさ
を学びました。このコロナ禍
で、そういった自身の原点を
見つめ直せたのは良かったで
す」

高校3年生にとって最後の
大会となる冬の選手権。全国
各地から集う選手たちと同様
これまでの人生の多くをサッ
カーに捧げてきた一村選手は、
「目指すは全国制覇。全てを
出し切るひたむきなプレーを
通して、自身を育ててくれた
皆さんに感謝を伝えられた
ら」と国立競技場での決戦を
目指して仲間とともに緑の
ピッチを駆け抜ける。